

平成 29 年度 第 2 回市民との意見交換会まとめ

日時等 7 月 1 5 日（土）10：00 ～ 11：30（9：45 開場）
 テーマ 防災（地震・水害・自主防災等）
 会 場 女性総合センター・アイム 5 階 第 3 学習室
 参加議員 伊藤 幸秀、江口 元気、松本あきひろ、木原 宏、須崎 八朗、
 山本みちよ、高口 靖彦、福島 正美、松本 まき、大石ふみお、
 永元須摩子、上條 彰一、稲橋ゆみ子、谷山きょう子、大沢 豊、
 （15 名）
 当日分担 司会 須崎八朗（メイン、グループ 2）、
 （※ 1） 江口元気（サブ、グループ 3）、
 高口康彦（グループ 1、手話通訳有グループ）
 書記 稲橋ゆみ子（グループ 2）福島正美（グループ 3）、
 大沢 豊（グループ 1）
 受付 松本まき、大石ふみお
 写真 松本あきひろ
 接待 木原 宏、山本みちよ、永元須摩子
 参加市民 9 名（男性 8 名、女性 1 名）※アンケート回収 7 枚
 （40 代 1 名、50 代 1 名、70 代 3 名）
 （幸町 1 名、栄町 2 名、錦町 1 名、富士見町 3 名）
 手話通訳者 2 名

※ 1

	グループ 1 (手話通訳あり)	グループ 2	グループ 3
グループリーダー	高口議員	須崎議員	江口議員
書記	大沢（ゆ）議員	稲橋議員	福島議員
	上條議員	伊藤議長	永元議員
	木原議員	大石議員	山本議員
	松本（ま）議員	松本（あ）議員	谷山議員

- 1 開会あいさつ（須崎八朗議員）
- 2 主催者あいさつ（伊藤幸秀議長）
- 3 資料説明（上條彰一委員長）
- 4 意見交換

市民の皆さんからの意見・要望

○大山団地に関して

- ・立川断層に議員の方は行かれたか
- ・立川断層は本当にあるのか
- ・食料品の備蓄は大丈夫か
- ・大山団地の備蓄倉庫は何日間の備蓄か
- ・古い井戸の災害時の活用について

○障害者、災害弱者の方について

- ・耳の聞こえない方への災害に関する情報の提供について
- ・避難所での聴覚障害者への情報提供について
- ・災害時の一人暮らしの高齢者のサポート
- ・市内に暮らす障害者の数はどうなっている？
- ・高齢者で子供のころ文字を学べなかった聴覚障害者への（文字以外での）情報提供は？
- ・聴覚障害者への情報提供はスマホがいい

○自治会の立場として

- ・災害弱者（災害時要支援者）の自治会への登録は難しい
- ・個人情報保護の問題や自治会への未加入者など課題がある
- ・常日頃、隣近所の付き合いが大切、それが支援に繋がる
- ・（意味が把握できなかったが・・・）〇〇と〇〇のクロス集計で空白の人があぶりだされる
- ・ツイッターで発信し、情報共有を図っている
- ・大山団地はほぼ 100%自治会員だが、戸建てはそうでもない
- ・災害時に自治会員でもない人に乾パンなどを与えるのは癪（に障る）
- ・災害時に自分の危機的状況を人に知らせることができなくなる。工夫が必要。（音を出せるものがあればいい）
- ・自治会活動に 30～40 歳代の人が出てきていない
- ・

○情報の伝達について

- ・停電などで情報が届かないケースを想定する
- ・情報を複数の手段で同時に伝える
- ・（河川の）水位情報をネットなどで公開しているが、これは「システムを乗っ取られた場合などに問題がある」と指摘する人がいるが、どう考えるか

- ・システム乗っ取りは別の話にしましょう

○火災について

- ・地震で怖いのが火事
- ・住宅密集地での火災
- ・（議員）住宅の改修の支援について求めている
総務員会の課題

・

○避難所について

- ・避難所にはコミュニケーションオードはあるか
- ・（MM 議員）避難所マニュアルにある
- ・9月24日に栄町で避難所マニュアルに従った訓練をやる
- ・（聴覚障害者当事者）幸町に住んでいるが、地域の人とはコミュニケーションは不十分
- ・隣組での日常からの付き合いが大切
- ・避難所に知り合いがいるかどうかでストレスが軽減される
- ・（T 議員のまとめ）非常時には普段の行い、日常的な付き合いが大切。

障害者、外国人、一人暮らしの高齢者など様々な人との付き合いを大切にしていきましょう。

○その他の話題

- ・セコムを入れているか（一人暮らし高齢者用）
- ・緊急通報システムは使っている（聴覚障害者）
- ・スタンドパイプは道具があっても（訓練がなければ）うまく使えない

市民の皆さんからの意見・要望

◆気になっていること

- ① 大雨における雨水の側溝等のつまり。富士見町坂下などひどい状況。砂川地域もひどいと聞いている。
- ② ジョギングをしていると水飲み場や休憩するベンチ等がない。また、どこにあるのかわからない。夏場の暑さ対策や災害時においても 問題ではないか。
アイム 1 階に水飲み場があったが、撤去した理由は？(回答する)
- ③ 雨水管の整備は 30%。都市計画としてさらに進めるべき。未整備地域において、自主防災として土嚢対策ができるよう、もっとしっかりと対処して欲しい。
- ④ 避難所運営マニュアルは、他の地域の取り組みを参考にすると作成しやすい。
他地域との情報共有できることを市に提案してきたが、どうなっているのか？
- ⑤ 災害時のペット対策について、初期対応としては「避難所運営マニュアル」に位置付けてある。が、長期的な対策は示されていない。
- ⑥ 総合防災訓練は、自治体の実態に合った訓練内容となっているのか？
- ⑦ 病院等関連機関と市が防災無線等緊急時の連絡体制について機能するか、定期的にチェックしているのか？
- ⑧ 富士見町は、昭和記念公園や多摩川という広域避難場所はある。一方で、高齢化率も高く、地域には高齢者の関連機関施設も多い。東日本大震災において、電力供給による被害が大きかった。今後同様な状況になった時の具体的な対策はどうなっているのか？
- ⑨ 立川駅周辺は、災害時対策として夜間の明かり対策等すぐに対処する体制はある。が、西立川や西国立駅周辺には対策がとれていない。町田市商店街の取り組みを参考に実施したい。(バッテリーを組み込んだ照明の設置) ところどころポイントを照らしておけば、誘導等効果的。既存の商店街振興の補助金では、使用できないことがわかった。実現できるよう一緒に考えて欲しい。
- ⑩ 災害時には外国人が多いことを考慮し、誘導等の表示が必要。
- ⑪ 富士山の噴火対策は考えているのか？

◆わからないこと

- ① 災害時における公園を活用した備蓄について。
- ② 地方では、個別の受信機を設置し、情報がしっかりと届くようになっている。
緊急情報を個別にとれるようになると対策がとれやすいのではないかといろいろ検討して欲しい。

◆提案、意見

- ① 水害の影響は広域的。市長参加のサミットにおいて、広域連携、他市からの水の流入把握等話し合っ欲しい。
- ② 自治会に加入していない市民も多い。自治会以外の人たちを対象にした取り組みを進めてほしい。

市民の皆さんからの意見・要望

【気になっていること】

- 立川市に「防災委員会」（民間レベルの組織）がない。
- 広域防災基地としての機能が発揮されていない。
- 立川市は昼間人口が多く、莫大な人数が出入りしているので、災害時の救済拠点を広域的に分散すべき。
- 立川駅周辺だけではなく、市内全域の他の駅や商業施設にも救済拠点を広げるべき。
- 帰宅困難者を立川に集めることは考え直した方が良い。

【困っていること】

- 踏み切りが多く、災害時の避難・救助に支障をきたす。（締りっ放しなった場合の混乱）
- 高松町・曙町に安全な避難場所がない。特に2小、5小が機能不全に陥る。
- 木蜜地域のため、道路も狭く、救助は不可能と考えたほうが良い。その上での対策を。

（特に高松町1丁目・5小～立川駅までの間）

- 大都市（駅周辺）、住宅地、北部地域の3つの地域に分けた防災計画を作るべきでは。
- 高松町と曙町は競輪場を避難場所とすべき。

【わからないこと】

- 防災委員会がどうしてないのかがわからない
- 事業継続計画（BCP）のうち、中央地域のものが無い。（エリアBCP）
- 立川市内にある危険区域の対策が出来ているのかがわからないので不安。

（危険区域のことは市民も知らないのではないか）

- 立川駅内に救急隊の常駐拠点が必要である。
- 災害医療センター以外からの出動拠点が必要。

（議員からの回答として）

- 先ずは市民に地域の危険度を知らせることから始めるべき。
- 立川市には危機管理部が未だないことが課題である。
- 危険な地域等をはじめとした実態調査をする必要がある。